



平成 18 年 3 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社フライトシステムコンサルティング
代表者の役職氏名 代表取締役社長 片山 圭 一 朗
(コード番号:3753 東証マザーズ)
問 い 合 せ 先 広 報 担 当 金(こん)浩 樹
福 原 亜 都 子
電 話 番 号 03 - 3440 - 6100 (代)

フライトシステムコンサルティング

デジタルシネマシステム「Homage(オマージュ)」の

劇場上映「放郷物語」(試写会)を実施

株式会社 フライトシステムコンサルティング(代表取締役社長:片山 圭一朗 本社:東京都渋谷区、東証マザーズ証券コード:3753)が開発し、昨年 11 月の国際放送機器展(InterBEE)で発表して大きな反響を呼んだデジタルシネマシステム「Homage」による日本で初めての劇場上映が、去る 2 月 19 日(日)、東京・渋谷の映画館「ユーロスペース」に於いて行われた試写会で実施されました。

上映された映画は飯塚 健監督、アクティブ・シネ・クラブ配給の「放郷物語」。女子高の卒業を間近に控え、新しい世界に旅立とうとする二人の女性の繊細な心のありようを軸に、さまざまな人間関係が交錯する、見終わったときに暖かい気持ちで心が満たされる作品。

飯塚監督独特の映像表現を「Homage」は余すところなく再現しました。

当日は夜 9 時 30 分からの試写会であったにもかかわらず満員となり、飯塚作品への人気の高さがうかがえました。「放郷物語」は 3 月 18 日(土)からレイトショーで「ユーロスペース」にて公開開始)

<<http://www.actcine.com/houkyo/>>

◇「Homage」による上映への飯塚 健監督のコメント

Q 今回、デジタルシネマシステム「Homage」を利用して、画質や音質については、どのような印象を持たれましたか？

A 革命、そう言っても過言ではないと思う。

キネコいらずで、正真正銘のデジタル上映を可能にした「Homage」。感動である。この先、インディペンデントシネマの上映におけるアイデンティティとなるのではないかと、そんな予感すら感じた。それほど素晴らしい。画質、音質に関しては噛み合わせるプロジェクターによって差はあるとは思いますが、画期的であることは疑いようがない。

作り手にとって、これほどありがたく、嬉しいことはないだろう。また、実は少々のプレッシャーも感じる。より一層の情熱を持って作品創りに励まなければ、その欠点すらもスクリーンに浮き彫りにしてしまうだろう。それほど素晴らしく、画期的なのだ。

Q 「Homage」等デジタルシネマ上映機器に期待している点、要望点をお聞かせください。

A 「Homage」の普及が広がることを願ってやまない。

現在、映画の低予算化は著しく、完成してもお蔵に入ってしまう不幸な作品たちは数多く存在する。デジタルシネマ「Homage」の出現により、キネコいらず、マスターいらずとなり、状況は改善されるはずだ。多くの作品たちが陽の目を見るチャンスは確実に広がっていると思う。

Q 今後のデジタルシネマ(撮影、編集、上映)の予定は？ また、今後も積極的に利用する意向はありますか？

A 次回作および、次々回作もDVとHDで撮る予定です。また是非とも、「Homage」上映をさせて頂きたいものです。より一層の発展に期待しています。また、僕もより一層の情熱で作品を創る構えであります。

今回は、「放郷物語」を「Homage」第一弾作品に選んで頂き、本当に光栄でした。ありがとうございました。

飯塚 健監督プロフィール

1979年生まれ。映画監督、脚本家、演出家。

22歳の時に「Summer Nude」を初監督。2003年、同作品で劇場デビュー。単館レイトショーながらもヒットを記録し、注目を集める。その後も、「金髪スリーデイズ 35℃」「電柱の上に咲いた花」を公開し、話題に。また、舞台界にも進出。役者きたろう氏と演劇ユニット・「メロンメロン」を結成し、「ファミリーボーン」を作・演出。連日超満員の好評を博す。また、自伝本「ピンポンダッシュ」を出版するなど、フィールドを問わず、コンスタントに作品を発表し続けている。飯塚健監督作品

映画:『Summer Nude』(02)、『金髪スリーデイズ 35℃』(03)短編、『電柱の上に咲いた花』(05)短編

演劇:『ファミリーボーン』(03)脚本／映像監修／演出、『ナンバーエンド廻転ピープル』(04)共同脚本／映像監修／演出

小説:『ピンポンダッシュ』自伝エッセイ(サンクチュアリ出版)

◇「Homage」による上映への小川 真司撮影監督のコメント

Q 今回、「Homage」を利用して、画質や音質については、どのような印象を持たれましたか？

A 画質はプロジェクターによる要因が大きく、ビクターのプロジェクターも初めてなので他社のプロジェクターとも見比べてみたいと感じました。

音質についても劇場の設備に影響される部分が多く、より良い音質で鑑賞するためには、もう少し時間をかけて調整する必要を感じました。

しかし、ネイティブなデジタルの映像を手軽に観られることには感動です。ここ数年、多くのデジタルビデオによる作品を製作してきましたが、デジタルで上映できる劇場が無いことから、満足な上映を行うことが出来なかったことを考えると、素晴らしい環境が出来上がったと感じました。

Q 「Homage」等、デジタルシネマ上映機器に期待している点、要望点をお聞かせください。

A デジタルビデオカメラは次々と新機種が発売され、今後も作品は多く作られて行きます。出来るだけ早く、最適なプロジェクターとの組み合わせで、多くの映画館に設置されることを望みます。また、リーズナブルな価格でレンタルされれば映画館以外の上映会にも活用されると思われます。

違法複製に対する対策を完全にしてほしい。

Q 今後のデジタルシネマ(撮影、編集、上映)の予定は？また、今後も積極的に利用する意向はありますか？

A 3 月には、飯塚監督と2本のデジタルシネマを製作します。他にも今年は数本の撮影予定があります。より良い画質、音質で上映するための環境作りには、私たち映画製作者と劇場、上映機器の開発者の連携が必要で、これからも協力は惜しみません。プロデューサーたちにも、「Hommage」による上映を積極的に推薦して行きたいと思います。「Hommage」の今後には、とても期待しています

小川 真司撮影監督プロフィール

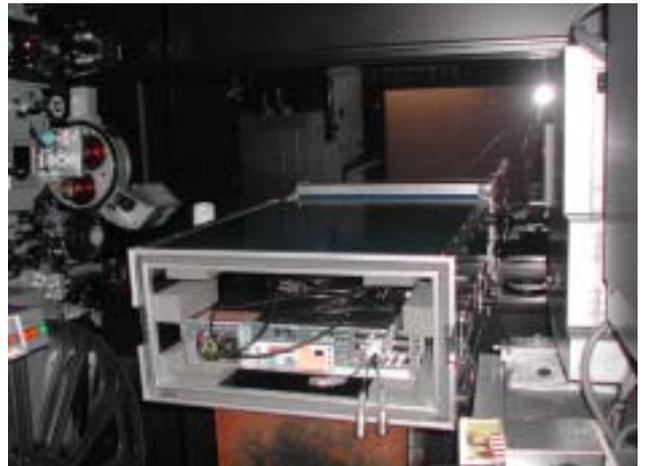
1959 年 横浜生まれ

映 画:密告(監督:福岡芳穂)、電柱に咲いた花(監督:飯塚健)、CROSS UP (松村聖治監督)、
映画監督って何だ！(伊藤俊也監督) 他

C M: 日本コカコーラ、資生堂、JR 東日本、松下電器、トヨタ、他多数



舞台挨拶をする飯塚監督、安藤希、徳永えり
(右から)



映写室に置かれたデジタルシネマ
上映システム「Hommage」



飯塚 健監督

<株式会社フライトシステムコンサルティングについて>

株式会社フライトシステムコンサルティングは、放送系やマルチメディア系の分野に向けシステムコンサルティング、システムインテグレーション、製品の販売をベースにコンテンツ資産をより有効に活用するためのデジタル・コンテンツ・マネージメントを行っているソリューションプロバイダです。メディア系の業務に精通し、また大容量コンテンツを扱うためのストレージ技術、ネットワーク技術、データベースノウハウを駆使した高度かつ高信頼性なシステム構築能力を持ち、顧客ニーズを的確に実現する事を目指しております。2004年11月に東証マザーズに上場いたしました。

詳細は下記ホームページをご参照ください

<http://www.flight.co.jp>